

感謝の一言

■進むコロナワクチン接種

コロナワクチンの接種状況について、65歳以上の市民の皆さんは8月末までで約90%の人が2回の接種を完了しました。また、64歳以下の市民については、年代を区切って順次接種が行われ、これまでのところ大きな混乱もなく進んでいます。

市では高齢者接種を終了させた後、クラスターを発生させないために、基礎疾患のある人や医療従事者・介護施設職員などだけでなく、学校や保育園の先生なども優先して接種を進めてきました。また、市独自に社員が概ね20人以上いる市内企業を対象に団体接種を進め、経営にとつての足かせを多少なりとも取り除くよう努めてきました。これとは別にT D Kも独自に職場接種を進めており、市内のワクチン接種は概ね順調に進んでいると言えます。この分だと10月末頃には現在の集団ワクチン接種事業を完了することができると見込んでいます。

■はじめの頃の混乱

ワクチン接種が始まる前からこの事業は混乱するであろうと予想していました。その原因はいろいろ考えられました。たとえば、予診票の配布、会場の設定、スタッフの配置、予約の方法、交通手段など、あらゆる場面での困難が予想されたからです。

もちろん、それら予想される課題に対

しては細かく検討し、事前の準備をしました。ですが、それでもなお何ともしようがないところが正直ありました。とは言え、多くの市民の皆さん、特に高齢者の皆さんに予約の段階から大きなストレスを与えてしまったことに間違いはありません。このことについては真摯に受け止めなければならぬと思っています。

■おもてなしと感謝の心

ワクチン接種事業を始めるにあたって市職員等に次の2つのお願いをしました。それは、「一丸となって取り組むこと」と「接種に来た皆さんに不安を与えないこと」でした。

特に、真っ先にワクチン接種をする高齢者の皆さんは大きな不安を抱いていたはずです。不安な気持ちのまま会場に来た高齢者の皆さんの緊張感を和らげてあげなければなりません。それには「おもてなしの心」だと思えました。皆さんも気づかれていますと思いますが、会場にたくさんいる職員がいます。皆さんもくさんの職員がいるなど感じていたはずですが、それは誰でもいつでも声を掛けたり掛けられたりできるようにするためです。市職員の姿が見えるだけで人々は安心してくれれます。

後になって、接種を受けた市民の皆さんから、接種会場での係員や市職員の頑張りを評価する声がたくさん寄せられるようになりました。

「係員の人たちの対応が丁寧だ。」

「困っていたらすぐに来てくれた。」

「帰るときに『ありがとうございました』と言ってくれた。こちらこそ『ありがとうございました。』」

この話を私があると手前味噌的になってしまうが、医師や看護師の皆さん、会場係員、市職員など全ての人が一丸となって取り組んでいることをお伝えしたかったのと同時に、彼らを静かに理解してくれる市民の皆さんにも改めて感謝を申し上げたかったです。

■気を緩めることなく

このコラムを書いている頃、県内でもデルタ株による感染者が急増し、更なる警戒が求められる状況となっています。確かにワクチン接種が進み重症化リスクは低くなっているのかもしれませんが、まだその全容がわからないうちは気を緩めてはなりません。これまでの市民の皆さんの頑張りを無駄にしないためにも、引き続き感染予防にしっかり取り組んでいかなければならないのです。



にかほ市長
市川雄次